The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 語文　第5輯　編輯後記/投稿規定/奥付 |
| Author(s) | |
| Citation | 語文. 1952, 5 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/68401 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

## ◪編輯後記◪

◇三年前には四百軒近くあった大阪の古書店が最近ではその半数に激減して了ったという。国語・国文学関係の書籍を並べる店の数は、およそその一割位だから本屋歩きは楽になった勘定になる。しかしそれも東京相場が常に上廻っているので値のいい東京へと本の流れてゆくのも自然だとは言い乍ら寂しいものがある。出版にしても大阪では学術書や学術雑誌の発行は殊にむづかしいという。

◇このような大阪に国文談話会ができて三年、その間、談話会は数多くの仕事を果してきたが、就中契沖阿闍梨円珠庵再建のための募金運動が会員や多くの協賛者たちの奉仕によって着々進捗しつつあることは特記されなければならない。そればかりでなく上代・近世の文学研究会も大阪の北と南で夫々着実な歩みを続けている。大阪和学の綜合的な研究への希望も昨年の契沖阿闍梨二百五十年忌を機に湧き上ったが、これも是非実現したい事のひとつである。われわれの大阪必ずしも学術不毛の地ではないのである。

◇今日も朝から雷鳴に似た爆音が研究室の硝子窓をひびかせている。

◇かかる時代の厳しさの中に本誌第五輯を遅れながらもおくり出すことのできることは吾々の喜びである。本号には小島教授に連載中の「奥の細道ところどころ」を中止して芭蕉の自然随順の性格・対自然態度についての所見を執筆していただいた。田中氏は連歌論の建設者としての二条良基を通して、連歌が、殊に和歌に対して区別せられる諸性格を、当時の新しい文学精神の顕現として把握しようと試みられた。横山・渋谷・岡、三氏の寄稿と共に読者に夫々興味深い問題を提起していると思う。

◇国語教育、今号にはドイツ文学の飜訳・研究に多くの業績をもたれる渡辺氏にお願いした。

（八木）

## ◪投稿規定◪

○直接購読者は投稿することができる。
○原稿の内容は国語・国文学・国語教育に関するものであること。分量は四百詰原稿用紙二十枚以内とする。
○原稿の送り先は「豊中市柴原、大阪大学文学部国文学研究室内、語文編輯委員」宛。
○原稿の採否は編輯委員に一任のこと。
○採用しなかった原稿は返送料が添附してあれば返送に応ずる。
○一括購読者が投稿する際には代表者から紹介せられたい。

❖雑誌の寄贈・交換について

○雑誌の寄贈・交換は大阪府豊中市柴原 大阪大学文学部 国文学研究室宛に願いたい。

❖購読について

○購読希望者は発行所宛前金を添えて申込むこと。（送金は振替を利用されたい）

一部　四十円　送料　八円
一年分（四回分）百六十円（送料共）

○五冊以上一括購読の時は一割引の上送料は不要とする。

語文　第五輯

定価　四十円
送料　八　円

昭和二十七年四月十日印刷
昭和二十七年四月十五日発行

豊中市柴原
大阪大学文学部国文学研究室
編輯者　代表者　小島吉雄

大阪市南区横堀七丁目一九
発行者　前田春雄

大阪市西淀川区柏里町三ノ二九
印刷所　寿印刷株式会社

大阪市南区横堀七丁目一九
発行所　邦進社
電話船場(25)一九九〇番
振替大阪一二三一三五番